ダウン症の奏者 輝く音色

千葉出身・リコーダー荒川さん 音楽一家4人で全国演奏行脚

家族「みんなの励みになれば」

ダウン症の障害がある千葉市出身のリコーダー奏者、荒川知子さん(35)＝仙台市在住＝が、家族と一緒に演奏活動を続けている。小学6年で千葉を離れる時、お別れ会で披露したのがはじまり。「知子の姿がみんなの励みや目標になればうれしい」。家族はそんな思いを込め、全国各地で演奏会を開く。

5月下旬、千葉市美浜文化ホール。知子さんは映画「魔女の宅急便」の挿入曲「海の見える街」や、兄の洋さん(47)作曲の「しあわせのたね」など14曲を家族で演奏。約300人の聴衆を前に多彩な音色を響かせた。フィナーレは小学校までを一緒に過ごした特別支援学級の仲間と「幸せのリズム」を歌った。

(上)荒川知子さん (下)公演前にリハーサルをする荒川一家。(左から)フルートの洋さん、ピアノの幸子さん、リコーダーの知子さん、フルートの健秀さん＝いずれも5月、千葉市美浜区

千葉市美浜区生まれ。リコーダーにのめり込むようになったきっかけは、小3の時の体験だった。普段、特別支援学級に通っていた知子さんは、交流学級(通常学級)で音楽の授業に参加。クラスメートの前でリコーダーを吹くと、大きな拍手が起こった。知子さんは感動のあまり涙を流したという。それ以来、リコーダーが大好きになった。

父健秀さんはフルート講師、母幸子さんはピアノ講師、兄洋さんは新日本フィルハーモニー交響楽団のフルート奏者。知子さんはそんな音楽一家で育った。小学校卒業と同時に仙台市へ引っ越す時、小学校のお別れ会で家族4人で初めて演奏した。それが「ファミリーアンサンブル」の始まりとなった。

2000年ごろから仙台市のイベントなどで本格的に公演を重ね、今年で結成20周年。全国各地で年間数十回の公演をこなし、オリジナルのCDアルバムも出している。

知子さんは楽譜をほぼ暗譜して演奏する。「シャープやフラット(変化記号)があると難しい」と知子さん。「サウンド・オブ・ミュージック」やアイドルグループ「嵐」の曲がお気に入りだ。

プロ奏者の洋さんは「知子には僕と一緒にやっても大丈夫な音色を求めている。練習でできなくても本番で輝く瞬間があって、すごいと思う」と話す。

音色や音量、表現方法は体調の変化に応じて毎回変わるが、「それも味わい。知子にしか伝えられないものがある」と語る。今後も活動を続け、知子さんの絵日記にエッセーをつけた本の出版などを考えている。

千葉では、房総の海へ家族で釣りに出かけたり、小学校の文化祭で歌などを披露したりしたのが大切な思い出だという。そんな家族は11月10日に県教育会館などで開かれる「ふれあいコンサート」にも参加する。公演予定などは公式ホームページ(https://www.arakawatomoko.com/)で。

(松本江里加)